

平成27年度長崎国際大学 入学式

学長式辞（全文）

“春立つや故郷の山河唄ひ出す”という句のように、春の主役が梅から桃へ、そして今や桜前線と変わります春本番の本日、第16回の入学式を迎えましたところ、朝長市長をはじめ、御来賓の皆様の御臨席を賜わり誠にありがとうございました。また御家族の皆様、本日はおめでとうございます。

さて、留学生68名を含む501名の新入学生の皆さん、本日の御入学、心より歓迎を申し上げます。

御承知の方もいらっしゃいますが、本大学は学校法人九州文化学園がその母体となっています。本学園は昭和20年、戦後日本が一番貧しく困窮の中で設立されました。現在は大学の他に長崎短期大学、九州文化学園高等学校、幼稚園、更に調理師専修学校、歯科衛生士学院を併設する地域の総合学園であります。

大学は平成12年、佐世保市、長崎県、地元の企業の御支援と熱い期待の中で設立された公私協力型の大学であります。建学の理念は“いつも人から心から”というホスピタリティを内包するものであります。

さて、今大学に入学した皆さん、これからの皆さんが生きていく社会はどのようなものでありましょうか。イギリスのある研究所の統計によりますと今後10年～20年位まででアメリカの47%の仕事が自動化され、人手がいなくなり、今の小学生が大学を卒業するころ、つまり14年～15年先には今存在していない職業に65%が働くという。現在の職業が自動化されたり、なくなったりする時、経済社会の変化や科学技術のイノベーションが加速的に進んでいくと考えられます。その為には、まず皆さんは大学のみで終わる学問ではなく、生涯を通じて学び続けることの出来る知識や技術を身に付けなくてはなりません。

現在、日本では地方の人口減少と地域経済縮小という課題を抱えています。国はあげて「地方創生」を叫んでいます。この課題解決の為には、大学は地域の求める人材ニーズの多様化に対応し、地方公共団体や企業との連携の中で、地域と協力して新しい人材育成をつくる役割を担っています。そうした時代背景の中、本学は伝統と文化を尊重し、地元にある平戸の武家茶鎮信流を建学の精神とし、それを育んできた郷土を愛し、志の高い人材養成をめざし、留学生と共にグローバルリーダーの国際教育、スポーツによる元気で活力のある学生の育成に努めています。

現在の「知識基盤社会」に対応するのは学問であり「学ぶ心」であります。
大学の学びに期待するのは、学ぶことによって新しい自分に出会うことです。学問や新しい知識に出会えます。学べば自分が知らなかったあなたの才能に出会い成長した自分に出会えます。そして学ぶことによって自分の求める仕事に就くことが出来るのです。

大学生とは大人になる為の登竜門でもあります。大人とは学習、日々の生活それによって結果を全て自分の責任としてとらえる人間であります。その為にはいつも自問自答し自分で自分を正しく自己評価をする習慣を学生時代中たえず行って下さい。自らに問いかけ、自らに答え、省みるところから真の大人が出来ていくのであります。

皆さんは縁あってこの大学に入学してみえました。第一志望校を不合格となった不本意入学の方もいるでしょう。外国から不安な中で留学してきた学生もいます。しかし不満や不安をこえて、縁のあったことを謙虚に喜びあいましょう。その喜びがきっと素晴らしい希望をもたらし、入学して良かったという縁が生まれ変わっていくのであります。一刻の猶予もできません。1日1日の積み重ねが1ヶ月、1年を作り上げます。左隣りで座っていられ本学が誇る先生方、この先生方は皆さんの目的、皆さんの志、そして皆さんの夢が達成できるよう教職員と共に真摯にサポートします。皆さんが入学して良かったと思える大学生活を真剣に応援します。共に努力し頑張ってください。心からの歓迎の学長の式辞といたします。

平成 27 年 4 月 2 日

長崎国際大学

学長 安部直樹